



パネルディスカッションの例

司会 これから、「災害から身を守るためには何が必要か」について、パネルディスカッションを始めます。パネリストは、北原さん、夏川さん、木村さん、中西さん、司会は森本と東野です。最初に、パネリストがそれぞれ自分の考えを述べます。次に、パネリストどうして意見をやりとりします。次に、その内容を聞いて、フロアのみなさんからパネリストへの質問や意見を言ってもらい、出てきた課題についてクラス全体で話し合います。最後に、これまでの話し合いをもとに、パネリストにまとめの発言をしてもらいます。

みなさん、これから銚子市で起こるかもしれない地震や津波などの災害から自分の身を守るためには、何が必要だと思いますか。

〈第一回発言〉

北原 ぼくたちは、「避難訓練をさらに充実させる」ことが必要だと考えました。東日本震災の時には、ある地域では、地震が起きる前に、学校で地域の防災について考え、津波が来ることを想定して訓練をしていました。このように、地震のときの行動を、前もって訓練していたことで、たくさんのお小・中学生が助かったそうです。

ぼくたちも、毎月、学校で避難訓練をしています。自分のためという意識をもっていない人もいるように思います。災害はいつどこで起こるかわからないので、大人がいないときにどう行動するかなど、いつも安全な行動ができるように考えることが大事だと思います。

夏川 私たちは、「家族と、災害に対する準備をする」ことが必要だと考えました。そこで、家庭の非常持ち出しぶくろの中を見てみることにしました。これは、私の家の非常持ち出しぶくろの中身の写真です。また、家族との集合場所についても話し合ってみました。私たちは、災害が来ないうちに、家族でしっかりと準備しておくことが大切だと考えます。

木村 私たちは、「過去の歴史から学ぶ」ことが必要だと考えました。銚子市は、海に近いこともあり、過去に何度も津波の被害を受けています。また、銚子には、「稲むらの火」で有名な、濱口梧陵が住んでいました。これまでの銚子の災害の歴史から、私たちが学べることはとても大きいと思います。

中西 ぼくたちは、「どんな設備があるのかを知る」ことが必要だと考えました。銚子には、防潮堤や防災無線、津波の高さを示す標識など、災害に備えたさまざまな設備があります。それらについて、もっとよく知ることによって、地域の防災に対する理解を深めることができると考えています。

司会 パネリストのみなさん、ありがとうございました。それぞれのパネリストの意見を整

理すると、北原さんは「避難訓練をさらに充実させる」立場から、夏川さんは「家族と、災害に対する準備をする」立場から、木村さんは「過去の歴史から学ぶ」立場から、中西さんは「どんな設備があるのかを知る」立場から、それぞれ地域の防災について考えていきたい、ということでした。

では、それぞれの意見を聞いて、質問や意見があつたら発言をどうぞ。

〈第二回発言〉

北原 夏川さんに質問です。家族と、災害に対する準備をすることが必要だと言っていますが、夏川さんの家ではどんな準備をしていますか。

司会 他に、夏川さんに質問や意見はありませんか。

中西 家族との集合場所については、どのようなことを話し合いましたか。

司会 夏川さん、二人から質問が出ていますが、いかがでしょうか。

夏川 はい。最初の質問について、私の家では、持ち出しぶくろの中に、このような小さなぬいぐるみを入れることにしました。うちには小さな妹がいるので、避難所で泣きださないか心配だからです。これがあると、妹の不安もやわらぐのです。二つめの質問について、私の家は近くの〇〇高校が避難場所になっているので、そこに避難することをかくにんしました。

司会 家族一人一人のことを考えて、入れるものを考えるということですね。他に質問や意見はありませんか。

木村 北原さんに質問です。「大人がいないときにどう行動するか」について考えることが大事ということですが、訓練をして備えたほうがよいのは、どんなときを考えていますか。給食の時間や特別教室にいるときなどを考えました。給食の時間は、あわてて熱い料理をこぼしたり、それをふんですべて転んだりするかもしれないからです。特別教室にいるときは、地震が起こったら、いつもの教室とは別の経路で避難しなければならぬからです。

司会 他に質問や意見はありませんか。ないようでしたらパネリストどうしの質問や意見のやりとりはこれで終わります。

それでは、パネリストの意見がわかったところで、フロアのみなさんからも質問や意見を聞きたいと思います。どうぞ挙手してください。

(フロア) **春田** 木村さんの意見に対して質問します。過去の災害や体験談から学んだことを、もう少し詳しく教えてくれませんか。

司会 他に、木村さんに質問や意見はありませんか。では、木村さん、お願いします。

木村 「稲むらの火」の話から、津波のときには高い所へ避難することが大切だということがわかりました。また、先ほどの中西さんの話から、銚子には、過去の津波の高さを示す標識があることを知りました。こういったものも、あらかじめ危険な場所を知る参考になると思います。

司会 他にフロアで質問や意見がある人はいますか。

(フロア) 林 夏川さんに質問します。妹のぬいぐるみの他に、家族で話し合っただけのものはありませんか。

司会 他に、夏川さんに質問や意見はありませんか。

(フロア) 山田 妹のぬいぐるみを入れてよいのなら、個人が持っていきたくないもの、例えば、自分が好きな本やゲームを入れてもよいでしょうか。

司会 夏川さんに、二人から質問が出ています。夏川さん、いかがですか。

夏川 まず、林さんからの質問にお答えします。知っている人もいるかもしれませんが、銚子には「銚子市ハザードマップ」というものがあります。「銚子市ハザードマップ」は、「地震ハザードマップ」「津波ハザードマップ」「洪水ハザードマップ」の三つがあつて、だれでも市のホームページから手に入れることができます。お父さんが、これもふくろに入れたほうがいいと言ったので、入れることにしました。次に、山田さんからの質問にお答えします。自分が好きな本やゲームは、持ち出すのに重くならないならいいと思うのですが、私の家族からは、本やゲームを入れたいという意見は出ませんでした。

司会 他に、フロアで質問や意見がある人はいませんか。

(フロア) 大橋 妹のために入れたぬいぐるみと、自分が持っていきたくない本やゲームを、同じように比べるのはおかしいと思います。

(フロア) 森田 非常持ち出しぶくろに何を入れるかは、家庭によってちがうと思います。自分の家庭だったらどんなものを入れるのか、みんなの意見を聞いてみたいです。

司会 わかりました。他に、フロアからの質問や意見はありませんか。ないようでしたら、自分の家庭では非常持ち出しぶくろに何を入れるかについて、クラスのみんなで考えてみたいと思います。

〈第三回発言〉

司会 では、最後に、パネリストのみなさんに、これまでの話し合いから考えたことをふくめ、自分の意見を述べてもらいます。北原さん、夏川さん、木村さん、中西さんの順番でお願いします。

北原 ぼくたちは、「避難訓練をさらに充実させる」ことが必要だと提案しましたが、他のパネリストやフロアからの意見や質問を聞いて、災害が来る前に、地域の防災について、積極的に考えておくことが大切だということを改めて感じました。

夏川 私たちは、「家族と、災害に対する準備をする」ことが必要だと提案しましたが、家族の中で話し合っただけでも、いろいろなことに気づきました。他のパネリストの人たちの意見やフロアからの発言を聞いて、家族だけではなく、学校や地域の人たちとも、だんからいろいろと話し合う機会をつくっておけば、もっと災害に対する備えができるのではないかと感じました。

木村

私は、中西さんの意見を聞いて、地域が過去の歴史から学んで、防災についての具体的な設備を整えていることがわかりました。また、北原さんや夏川さんの意見を聞いて、過去の歴史から学ぶことも必要だけど、災害が来たときのことを予測して、いろいろ考えたり、話し合っておくこともとても重要だということがわかりました。

中西

ぼくが調べた「津波の高さを示す標識」は、北原さんの発表した「避難訓練をさらに充実させる」や、夏川さんの発表した「家族と、災害に対する準備をする」とも関係があるなと思いました。今日の話し合いで、みんな調べたことがつながっていると感じました。

司会

今日は、「災害から身を守るためには何が必要か」という論題で話し合いました。「避難訓練をさらに充実させる」「家族と、災害に対する準備をする」「過去の歴史から学ぶ」「どんな設備があるのかを知る」という立場から、さまざまな意見が出され、おたがいに考えを深め合うことができました。みなさん、地域の防災について、これから意見交換して、自分たちの住む町が、どうしたら災害に強い、安全な町になるのか考えていきましょう。

これで、パネルディスカッションを終わります

